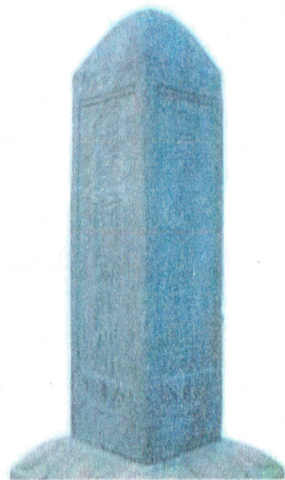




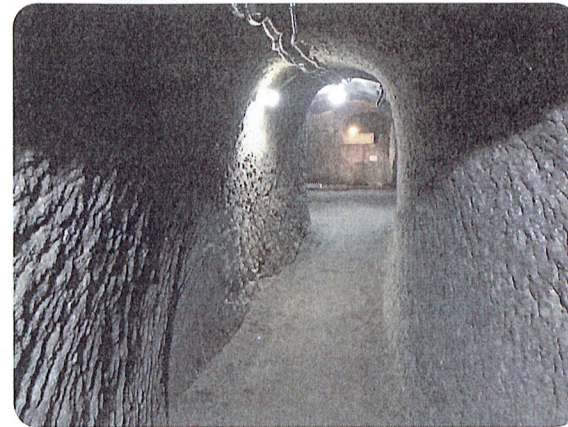
秀吉の朝鮮侵略と家康の回答兼刷還使事業に関わる時代背景から、異国で亡くなった戦没者供養と平和祈願をこめて建立されたと推察される。



NPO法人安房文化遺産フォーラムHPより

北面	西面	南面	東面
南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛
朝鮮文	朝鮮文	朝鮮文	朝鮮文
中国篆字	中国篆字	中国篆字	中国篆字
和風漢字	和風漢字	和風漢字	和風漢字
印度梵字	印度梵字	印度梵字	印度梵字

＜大巖院石塔碑文＞



赤山地下壕

現在の海上自衛隊館山基地のすぐ南側に、通称「赤山」と呼ばれる標高60mの小高い山がある。凝灰岩質砂岩などからできた岩山のなかには、総延長2km近い地下壕と、巨大な燃料タンク基地跡などが残っている。戦争末期に格納施設がつくられ、緊急の兵舎や医療施設として、基地の司令部・奉安殿・戦闘指揮所・兵舎・病院・発電所・航空機部品格納庫・兵器貯蔵庫・燃料貯蔵庫などの施設があったと考えられ、全国でも極めて珍しい航空要塞的な機能をもった地下壕であったと推定される。



大巖院と四面石塔

1603(慶長8)年、里見義康の帰依により、雄答靈巖上人を開山として創建。浄土宗の檀林。ここに1624(元和10)年、雄答靈巖上人が建立した四面石塔がある。高さは219cm。東西南北の各面に、朝鮮ハングル・中国篆字・和風漢字・印度梵字で「南無阿彌陀仏」と刻まれている。特に注目されるのは「ハングル字形」が朝鮮国第4代王世宗が1446年に公布したものの、短期間で消滅したという創成初期の「東国正韻」式の字形といわれ、韓国にもない非常に貴重なものである。

